

「日本の里地里山30」保全活動コンテスト

多摩地区2団体が受賞

ふもとなどの風景を守る優れた活動をしている団体を顕彰する「日本の里地里山30」保全活動コンテスト(主催・読売新聞社、共催・環境省)で、全国の三十の受賞団体が決まった。多摩地区からは、八王子市の「みなみ野自然塾」(水越正塾長)と、町田市の「町田歴環管理組合」(田極公市理事長)が選ばれた。

みなみ野自然塾 NT内で稲作 雑木林を整備

雑木林と農地が広がっていた多摩丘陵を造成し、一九九七年に街開きをした八王子市

のニュータウン「みなみ野シティ」。その同じ年、快適な暮らしを守りながら、かつての里山風景の保全・復元を目指す「環境共生」を掲げて、旧住宅・都市整備公団(現・都市基盤整備公団)が新住民らに働きかけて発足させたのが「みなみ野自然塾」だ。

現在約五十世帯、約百七十人の塾生がいる自然塾では、「稲作」「畑作」「雑木林の保全と自然観察」の三つを活動の柱に据える。かつての風景を再現するため、公団が水



田植えをする「みなみ野自然塾」の親子ら(2002年6月、八王子市みなみ野の橋谷戸公園で、都市基盤整備公団提供)

町田歴環管理組合 樹林地や谷戸 復元取り組む

田や人工池などを造ったニュータウン内の公園で、塾生らは月二、三回、地元農家のア

多摩丘陵の一角にある町田市の国師小野路歴史環境保全地域で、樹林地や谷戸の管理・復元に取り組む。農家など地元の人たちが、長く培ってきたこの土地にふさわしい農法で環境を守っているのが特色だ。

一帯は、一九七八年に三十三町が保全地域として都の指定を受けた後、立ち入る人が増えて自然破壊が進み、離農者も出て荒廃が目立ち始めた。また、地域内の所有地は、土地の事情に通じていない遠来の業者が管理委託されていた。こんな状況を心配した地元の人たちが、白らの手でめ

ドバイスも受けながら稲作や畑作作業などを続けてきた。収穫した作物は地域の芋煮会や餅つき、収穫祭などで味わい、住民同士の交流にも役立ててきた。また、ニュータウン造成地内の緑地では、雑木林の整備やホタルの飼育な

ど自然の生態系を保ち、よみがえらせる活動も続けている。さらに地元の小中学校の体験学習にも協力。田植えなどに塾生が付き添って指導し、自然を次世代に手渡す活動にも力を入れる。



谷戸田の手入れをする町田歴環管理組合のメンバー(町田市内で、同組合提供)

細かい管理を担うことを都に提案し、九六年、「町田歴環管理組合」として委託を受けた。以来、約十五人のメンバーが、所有地で毎週末、作業にあたる。谷戸では草刈りをし、農道やあぜ、水路などを復元。樹林地の間伐、ため池の整備も進めてきた。経験に裏打ちされた技術が生かされ、身近な